

高機能ポリマー原料・DHDPs最大手の小西化学工業はコロナ対策に意欲的に取り組む中小メーカーの代表だ。

「社内の遊休スペースを活用して机を分散し、福井工場ではプレハブを借りてまで接触を減らした。テレワーク推進のため以前から社内の意識改革を計画していたが、今回のコロナ禍で一気に定着した。今後、デジタルインフラの整備を進め、ウェブ会議を活用して顧客とより「密」な関係を構築していく。」

工場の無人運転を目指す「スマートファクトリー構想」を推進する小西弘矩社長は、緊急事態宣言の最中、このようなコメントを寄せられた。

## 小西化学工業



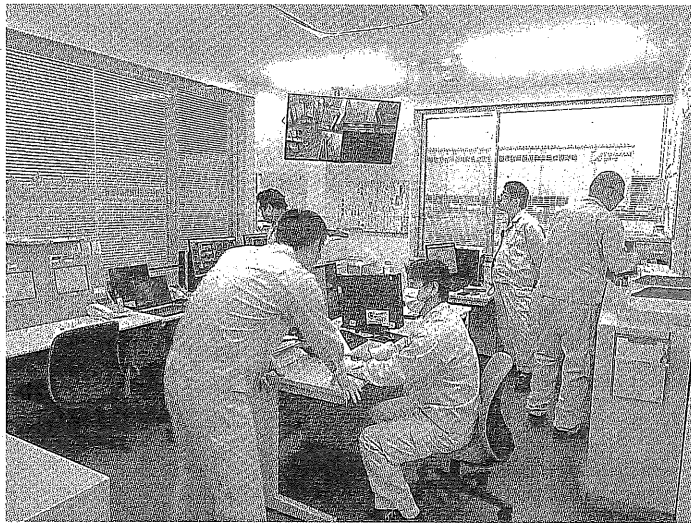
小西 弘矩 社長

和歌山発祥の化学メーカーは、それぞれの培ったオシリーワン技術の研鑽に努め、幾度となく難局を乗り越え、新たなビジネスの地平を切り開いてきた。航空機や自動車、情報通信など先端産業の技術革新を支えるポリエーテルスルホン(PES)樹脂の原料、シヒドロキシジフェニルスルホン(DHDPs)の最大手として存在感を強める小西化学工業は、そんな逆境をバネに成長してきた地元の化学業界を象徴するような有力企業である。

「現状に満足せず、新たな挑戦に打って出るチャレンジ精神が当社の基

# 感熱材料工場が今秋完成

本理念。コロナショックで先が見通せない不確実な時代でも、その理念を貫き「感染拡大」という新たな災害に耐えられる当社独自の事業体系を確立していく。IoT(モノのインターネット)などによって工場の無人運転を可能にする「スマートファクトリー構想」を推進し、以前からテレワーク浸透の意識改革にも意欲的な小西弘矩社長は、こう力を込めた。



福井工場の制御室。プラントの無人運転を目指すデジタルインフラの整備が進んでいる

きた売上高も直近2期連続で念願の年50億円を突破し、前期は過去最高を更新するなど業績も好調だ。その躍進の原動力は、大手化学出身者らを幹部に登用するなどして年々充実する開発・製造部門の総力を結集して挑む新事業創出プロジェクトである。

「DHDPsの量産拠点として整備が進む福井工場では、期待の新製品である感熱材料のプラント建設が今秋の完成を目指し急ピッチ。また、本社工場内に2018年に新設した開発棟では、第1弾として製造を始めた次世代シリコン樹脂PSQに続き、特殊偏光板向けの新規テーマが浮上しており、有機系の開発型マルチプラントを増強する」(小西社長)。

コロナ禍で4月、5月は生産調整を余儀なくされたが7月中旬には通常の稼働に戻る見込みという同社の動向から目が離せない。